

講義名	コミュニケーション論			授業形態	
担当教員	佐藤 彰宣	開講期・曜日・時限	後期 水曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

近年、社会の様々な場面で「コミュニケーション」の重要性が強調されている。だが、そもそも「コミュニケーション」とは何を意味するのだろうか。本講義では、多義的な意味が包含されている「コミュニケーション」について、主として社会学の視点から検討する。具体的には、現代社会のなかでコミュニケーションのあり方がいかに成り立っているのかについて、社会学の概念や理論を振り交ぜながら考察する。

到達目標

- ・近現代社会におけるコミュニケーションの意味や仕組みを論じることができる。
- ・コミュニケーションについての社会学の概念・理論を理解し、説明することができる。
- ・コミュニケーションにまつわる社会・文化現象を社会学の視点から分析することができる。

提出課題

授業内で レスポン課題、 期末レポートを課す。
 レスポン課題については、毎回の授業内で課し、提出をもって出席とする。なお授業日数の3分の1以上を欠席した場合は、成績対象外となり「放棄」として扱う。
 いずれの課題においても適切（出席を表明しないネット記事の書き出し・コピペ）は不正行為とみなす。他の人の課題を写す/写させる行為も不正行為である。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

レスポン課題として寄せられたコメント・質問を、毎回授業内で適宜紹介し、応答する。

評価の基準

成績評価は レスポン課題（30％） 期末レポート（70％）によって行う。
 これらにおいては、（1）授業理解度（授業で扱った概念や理論について理解・説明できているか）、（2）分析・考察（授業で学んだ概念や理論を用いて、特定の現象の原因や仕組みを論理的に説明できているか）を問う。

履修にあたっての注意・助言他

日常生活のなかでもコミュニケーションの意味を改めて振り返って考えることや、コミュニケーションに関する情報や知識を積極的に集めておくことで、授業内容についての理解もより深まることが期待される。

教科書

.使用しない。

参考図書

.社会学、長谷川公一ほか、有斐閣、9784641053892

その他

適宜レジュメを配布する。上記以外の参考文献は自らのなかで別途案内する。

授業計画

1. 授業の導入：「コミュニケーション」とはなぜ「コミュニケーション」に注目が集まる？
2. 社会におけるコミュニケーション：糸としての相互行為
3. 相互行為と自己：役割取得と社会化
4. 相互行為と自己：「Iと他」
5. 公共空間における相互行為：逸脱と社会
6. 公共空間における相互行為：プロクセミアクス
7. 公共空間における相互行為：儀礼的無関心
8. 公共空間と親密空間：離脱
9. 公共空間と親密空間：道徳実験
10. 親密空間と公共空間の分類：近代と都市空間
11. 親密空間と公共空間の分類：都市と地域のコミュニティ
12. 都市空間における相互行為：「秘密と信頼」
13. 行為と演技：ドラマトカルギー
14. 行為と演技：役割距離
15. 授業の総括：コミュニケーションを読み解く視点としての社会学
 受講生の関心、授業の進度などに応じて一部内容を変更することがある。また授業内容に関する時事的な話題も扱う。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> A：PBL（課題解決型学習）	<input type="checkbox"/> E：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="checkbox"/> W：ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> F：グループワーク
<input type="checkbox"/> O：プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> G：実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> K：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

コミュニケーション論についての体系的な知識を身につけるためには、講義内容についての予習・復習（レジュメおよび参考書に目を通す）を行ってほしい（週に4時間以上）。また学生の主体的な取り組みとして自学自習を常に受け付け、講義内容に関する新聞・雑誌記事についてのレポート、関連書籍の書評など自習の成果の提出を受け付け、評価に加点する。様式は自由であるが、必ず出典を明記すること。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本科目では、現代社会のコミュニケーションにまつわる諸現象を社会学の視点から考える、こうした視点を得ることは、卒業認定・学位授与の方針として示されている「流通科学大学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力」のなかでも、特に「情報収集力」「情報分析力」「課題発見力」などを養うことにつながる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

レポート課題の提出などは、ポータルサイト「Ryuka Portal」を通して行う。また授業内ではコミュニケーションの社会的意味をより分かりやすくイメージしてもらうために、レジュメだけでなく映像資料も積極的に活用する。コミュニケーションと社会がどのような関係にあるのかを意識しながら、映像資料（コミュニケーションに関するドキュメンタリーや映画など）を視聴することで、講義内容への理解がより深まることが期待される。

実務経験の有無及び活用

備考